# 社会学部


| | | |
|---|---|---|
| 第１章 | 理念・目的 | 1 |
| 第３章 | 教員・教員組織 | 5 |
| 第４章 | 教育内容・方法・成果 | |
| 1 | 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 | 10 |
| 2 | 教育課程・教育内容 | 15 |
| 3 | 教育方法 | 19 |
| 4 | 成果 | 26 |
| 第５章 | 学生の受け入れ | 29 |
| 第７章 | 教育研究等環境 | 35 |

# 2015 年度 自己点検・評価シート

| 学部・研究科等名 | 社会学部 |
|---|---|
| | 文学部（現代社会学科） |

| 基準 No. | 基準項目 |
|---|---|
| 1 | 理念・目的 |

## 1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 101 | 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 |
| 現在の状況（年度開始時） | |
| 社会学部は、建学の精神と校訓に基づき「教育研究上の目的」を学則に定め、さらに「教育理念及び教育方針と目標」を策定している（資料1､2）。<br>設置申請が許可されたように、社会学部現代社会学科において社会学及び社会福祉学の教育研究をおこなうことは実績・資源、理念・目的に適っている。すなわち、社会学部は、応用社会学の発展という文学部社会学科設置時の理念・目的を継承発展させたものであり、社会諸問題の実践的解決を担うという使命を担っている。社会学、社会福祉学の専任教員、さらに加えて隣接領域である図書館司書課程、教職課程の教員を擁し、教育研究のフィールドとなる地域諸組織との連携も確保されている。<br>学部の特色は、設置申請に基づき、学則に定めているとおり、「「人になれ　奉仕せよ」の校訓のもと、社会学と社会福祉学の分野の教育研究活動の発展と普及を通して社会に寄与することを研究教育上の目的とし、社会学と社会福祉学を両輪にした学びを通して、優れた人権感覚と公共心を育み、人と社会をめぐる諸問題に公正な解決をもたらす構想力と実践力を持ち、多文化共生社会の形成と社会福祉の実現に貢献できる人材の育成を目指している」ことである。 | |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 102 | 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（学生・教職員）に周知され、社会に公表されているか。 |
| 現在の状況（年度開始時） | |
| 理念・目的はホームページ上で公表し、大学構成員のみならず社会にも広く周知している（資料 3）。「教育理念及び教育方針と目標」については、「履修要綱」にも掲載し、大学構成員への周知を図っている（資料 4）。また、地域諸組織との連携や各種のイベントを開催することで社会学部の設置の趣旨を普及させている。今後は、周知方法の有効性について検証していく必要がある。<br>なお、理念・目的については、学則掲載のもの（設置届出申請書類に同じ）を原典とし、各媒体の記載における整合性を取っている。 | |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 103 | 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 |
| 現在の状況（年度開始時） | |
| 社会学部自己点検・評価委員会の規程に基づき、理念・目的の適切性を定期的に検証している（資料 5）。 | |

## 2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

| 項目No | 点検・評価項目 | |
|---|---|---|
| 101 | 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 | |
| 方針・目標・取組・改善方策等 | | |
| ・大学、学部、研究科等の理念・目的を適切に設定する。 | | |
| 効果が上がった・改善された事項 | | |
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
| 特になし。 | | |
| 改善すべき事項 | | |
| 内容（明らかになった課題点など） | | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| 特になし。 | | |
| 評価の視点 | | |
| ① | 理念・目的を明確にしているか。 | 明確にしている/~~していない~~ |
| ② | 理念・目的間の整合性は取れているか。 | 取れている/~~取れていない~~ |
| ③ | 実績や資源からみて理念・目的は適切か。 | 適切である/~~適切でない~~ |
| ④ | 理念・目的の個性化 | |

| 項目No | 点検・評価項目 | |
|---|---|---|
| 102 | 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（学生・教職員）に周知され、社会に公表されているか。 | |
| 方針・目標・取組・改善方策等 | | |
| ・社会学部の理念・目的は、従来どおり『履修要綱』とホームページ、またその他の機会に学生および教職員に周知する。<br>・社会学部の理念・目的は、ホームページによって社会に公表し、周知する。<br>・理念・目的の周知方法の有効性について検証する。<br>・教職員、学生および社会へ公表される各種媒体において、学部の理念・目標が統一的に記載されているかを常に検証する。 | | |
| 効果が上がった・改善された事項 | | |
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
| 特になし。 | | |
| 改善すべき事項 | | |
| 内容（明らかになった課題点など） | | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| 特になし。 | | |
| 評価の視点 | | |
| ⑤ | 大学構成員（学生・教職員）に対する周知方法とその有効性 | 周知している/~~していない~~ |
| ⑥ | 社会への公表方法 | 公表している/~~していない~~ |
| ⑦ | 明示媒体による違いはないか。 | 違いはない/~~違いがある~~ |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 103 | 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 |
| 方針・目標・取組・改善方策等 | |
| ・引き続き、社会学部自己点検・評価委員会の規程に基づき、理念・目的の適切性について当該委員会で定期的に検証を行う。 | |

| 効果が上がった・改善された事項 | | |
|---|---|---|
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
| 特になし。 | | |
| 改善すべき事項 | | |
| 内容（明らかになった課題点など） | | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| 特になし。 | | |
| 評価の視点 | | |
| ⑧ | 定期的に検証を行っているか。 | 検証を行っている/~~行っていない~~ |

## 3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

**S** ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

**A** ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

**B** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

**C** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

<table>
<tr><th rowspan="3">項目No</th><th rowspan="3">点検・評価項目</th><th rowspan="3" colspan="2">評価の視点</th><th colspan="6">自己評価</th></tr>
<tr><th colspan="3">2014 年度</th><th colspan="3">2015 年度</th></tr>
<tr><th>評価視点</th><th>評価項目</th><th>評価基準</th><th>評価視点</th><th>評価項目</th><th>評価基準</th></tr>
<tr><td rowspan="4">101</td><td rowspan="4">大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。</td><td>①</td><td>理念・目的を明確にしているか。</td><td>A</td><td rowspan="4">A</td><td rowspan="9">A</td><td>A</td><td rowspan="4">A</td><td rowspan="9">A</td></tr>
<tr><td>②</td><td>理念・目的間の整合性は取れているか。</td><td>-</td><td>A</td></tr>
<tr><td>③</td><td>実績や資源からみて理念・目的は適切か。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td>④</td><td>理念・目的の個性化</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="3">102</td><td rowspan="3">大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（学生・教職員）に周知され、社会に公表されているか。</td><td>⑤</td><td>大学構成員（学生・教職員）に対する周知方法とその有効性</td><td>A</td><td rowspan="3">A</td><td>A</td><td rowspan="3">A</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>社会への公表方法</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>明示媒体による違いはないか。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td>103</td><td>大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。</td><td>⑧</td><td>定期的に検証を行っているか。</td><td colspan="2">A</td><td colspan="2">A</td></tr>
</table>

※ 評価基準:基準項目に対する評価　　評価項目:点検・評価項目に対する評価　　評価視点:評価の視点に対する評価

## 4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

| 資料 No | 根拠資料の名称 |
|---|---|
| 1 | 関東学院大学学則　第４条第２項第３号 |
| 2 | 大学及び学部・研究科の教育理念及び教育方針と目標 |
| 3 | 関東学院大学ホームページ「関東学院大学の情報」（1.大学の教育研究上の目的に関すること）」<br>http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/content/files/about/disclosure/2015/disclosure_1-1-3.pdf |
| 4 | 2015 年度履修要綱（社会学部） |
| 5 | 関東学院大学社会学部自己点検・評価委員会規程 |

# 2015 年度 自己点検・評価シート

| 学部・研究科等名 | 社会学部 |
|---|---|
| | 文学部(現代社会学科) |

| 基準 No. | 基準項目 |
|---|---|
| 3 | 教員・教員組織 |

## 1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 301 | 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。 |
| 現在の状況（年度開始時） | |
| 社会学部では大学全体の規程・基準・方針に基づいて定めた求める教員像に沿って教員を選考している。<br>社会学部の教員に求める能力・資質を関東学院大学教員選考基準に関する社会学部細則に教員の選考基準として定めている(資料1)。<br>教育課程の改廃・更新及び担当教員について、教授会の委任により設置した学科委員会を設置して学科の責任において審議している。<br>学部の意思決定・調整機関として教授会を設置し、教授会のもとに運営委員会、人事委員会、教務委員会、FD 委員会等を設置して、教育に関する権限と責任を明確にしている。(資料 2～6) | |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 302 | 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。 |
| 現在の状況（年度開始時） | |
| 大学で設定している教員定数に基づき、設置基準上必要となる教員数を満たす学部の教員を配置している(資料 7)。<br>社会学部の専任教員は現代社会学科に所属している。2015 年度 5 月 1 日現在、現代社会学科に専任教員は 16 名(任期付助手1名含む)を配置している。教職課程・図書館司書課程の教員 4 名を含めると 20 名が在籍しており、設置基準上必要となる専任教員数を満たしている(資料 8)。収容定員に対する教員1人あたりの学生数は 38.2 人である。外国籍教員は1名である。客員教授1名を迎えている。<br>多くの教員に専門科目と同時に共通科目を分担させ、専門科目と共通科目(さらには諸課程科目)との連携を有効に機能させている。<br>社会学部の教員の年齢構成は、2015 年度には配置教員 19 名中、60 歳以上が 8 名(うち 65 歳以上 2 名)となり、しばしの間は均衡を欠くことになる。また、男女比は 13:6 となる。(資料 8)。<br>専任教員、非常勤講師ともに、教員の採用に際しては、学科委員会において教員の専門分野と授業科目との適合性を判断し、社会学部教務委員会において確認し、教授会の承認を得ている。<br>非常勤講師についても、研究業績との科目適合性を学科委員会で検討し、教務委員会において確認し、教授会の承認を得ている。 | |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 303 | 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。 |
| 現在の状況（年度開始時） | |
| 教員の募集・採用・昇格は学院および大学の規程に基づいて、関東学院大学社会学部人事委員会規程を定めて行っている(資料 2)。選考手続は関東学院大学社会学部教員選考規程に基づいて実施している(資料 9)。<br>昇格の条件については、関東学院大学教員選考基準に関する社会学部細則で定めている(資料 1)<br>規程等に従い、社会学部人事委員会のもとに編成される業績審査委員会で厳格な審査を行い、人事委員会の議を経て、教授会において最終的な採用、昇格の可否を審議している。<br>採用に際しては、研究業績偏重とならないように採用候補者の模擬授業実施を審査に加えている。 | |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 304 | 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。(※ここでの FD は「教員の資質向上」に関する活動を指す。「教育課程や教育内容・方法の改善」に関する活動は、点検・評価項目 No.411 参照。) |
| 現在の状況（年度開始時） | |
| 2013 年度より、専任教員の自己点検・評価を開始した。2015 年度についても全専任教員に教員の教育研究活動について自己点検評価シートの提出が求められている。<br>全学方針のもとシラバスの表記方法が改善されている。授業公開制度についても、全学方針にもとづき実施方法を改善している。<br>教育に関する方策として、FD 委員会を教授会のもとに置き、教員の資質の向上(FD 活動)を促進している。<br>研究に関する資質の向上とて、人文科学研究所における研究助成制度で研究を有効に推進し、研究成果は『所報』に公表している(資料 10、11)。 | |

## 2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

| 項目No | 点検・評価項目 | |
|---|---|---|
| 301 | 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。 | |
| 方針・目標・取組・改善方策等 | | |
| ・大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にする。 | | |
| 効果が上がった・改善された事項 | | |
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | 伸長方策（将来に向けた発展方策） | |
| 特になし。 | | |
| 改善すべき事項 | | |
| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） | |
| 特になし。 | | |
| 評価の視点 | | |
| ① | 教員に求める能力・資質等を明確にしているか。 | 明確にしている/~~していない~~ |
| ② | 教員構成を明確にしているか。 | 明確にしている/~~していない~~ |
| ③ | 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在を明確にしているか。 | 明確にしている/~~していない~~ |

| 項目No | 点検・評価項目 | |
|---|---|---|
| 302 | 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。 | |
| 方針・目標・取組・改善方策等 | | |
| ・中長期的な展望に立って年齢構成、男女比の改善に努める。 | | |
| 効果が上がった・改善された事項 | | |
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | 伸長方策（将来に向けた発展方策） | |
| 特になし。 | | |
| 改善すべき事項 | | |
| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） | |
| 特になし。 | | |
| 評価の視点 | | |
| ④ | 編制方針に沿った教員組織を整備しているか。 | 整備している/~~していない~~ |
| ⑤ | 専任教員の年齢構成等は適切か。 | 適切である/~~適切でない~~ |
| ⑥ | 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みを整備しているか。 | 整備している/~~していない~~ |
| ⑦ | 研究科担当教員の資格を明確にしているか。（研究科、法務研究科） | 明確にしている/していない |
| ⑧ | 研究科担当教員を適正配置しているか。（研究科、法務研究科） | 適正配置している/していない |

| 項目No | 点検・評価項目 | |
|---|---|---|
| 303 | 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。 | |
| 方針・目標・取組・改善方策等 | | |
| ・教員の募集・採用・昇格を適切に行う。 | | |
| 効果が上がった・改善された事項 | | |
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | 伸長方策（将来に向けた発展方策） | |

| | |
|---|---|
| 特になし。 | |
| 改善すべき事項 | |
| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| 特になし。 | |

| 評価の視点 | | |
|---|---|---|
| ⑨ | 教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きを明確にしているか。 | 明確にしている/~~していない~~ |
| ⑩ | 規程等に従った適切な教員人事を行っているか。 | 行っている/~~行っていない~~ |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 304 | 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。（※ここでのFDは「教員の資質向上」に関する活動を指す。「教育課程や教育内容・方法の改善」に関する活動は、点検・評価項目 No.411 参照。） |

方針・目標・取組・改善方策等

・専任教員に対して、教育研究活動の自己評価を自己点検・評価シートにより、年度末に実施する。
・教育活動については、教授会のもとに FD 委員会を置き、教育の質の向上（FD 活動）を促進する。また、以下の活動を通して、非常勤講師を含め、教育課程に関わるすべての教員のFD活動に努める。教育に関する FD 活動が有効に機能しているかどうかはセメスター毎に集計される「授業改善アンケート調査」の結果によって検証する。
・大学の方針に則って、公開授業期間を設定し、セメスター毎に授業を公開するとともに、他の教員の授業を参観する機会を設ける。
・研究に関する FD 活動としては人文科学研究所における研究助成制度により、研究の推進と質の向上を目指す。なお、その有効性は『紀要』および『人文科学研究所 所報』に公表された研究論文により検証する。
・毎年3月にFD研修会を兼ねて、非常勤講師懇談会を開き、非常勤の教員とも連携を深めながら教育内容の確認と成果、そして改善についての話し合う FD 活動を継続して実施して行く。
・2014 年度に引き続き、各学部等で対応していた新任専任教職員対象の研修会を「全学 FD・SD 講習会」として開催している。セミナー等の効果（本学の教職員に、教授法やカリキュラムの在り方等における新たな知見及び技術を修得させ、教育力向上につながっている）を検証しつつ、継続して開催する。
・専任教員における「教育・研究等活動に関する自己点検・評価」を継続して PDCA サイクルの実質化を図る。
・情報公開（ホームページで情報公表している教育・研究業績）との一元化を検討する。

| 効果が上がった・改善された事項 | |
|---|---|
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
| 特になし。 | |
| 改善すべき事項 | |
| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| 公開授業期間が参観者を得られず、実効的でなかった。 | 「全学 FD・SD 講習会」の研修への参加を勧奨する。 |

| 評価の視点 | | |
|---|---|---|
| ⑪ | 教員の教育研究活動等の評価を実施しているか。 | 実施している/~~していない~~ |
| ⑫ | ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と有効性 | 実施している/~~していない~~ |

## 3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

**S** ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

**A** ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

**B** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

**C** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

| 項目No | 点検・評価項目 | 評価の視点 | | 自己評価 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 2014年度 | | | 2015年度 | | |
| | | | | 評価視点 | 評価項目 | 評価基準 | 評価視点 | 評価項目 | 評価基準 |
| 301 | 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。 | ① | 教員に求める能力・資質等を明確にしているか。 | A | A | B | A | A | B |
| | | ② | 教員構成を明確にしているか。 | A | | | A | | |
| | | ③ | 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在を明確にしているか。 | A | | | A | | |
| 302 | 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。 | ④ | 編制方針に沿った教員組織を整備しているか。 | A | B | | A | B | |
| | | ⑤ | 専任教員の年齢構成等は適切か。 | B | | | B | | |
| | | ⑥ | 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みを整備しているか。 | A | | | A | | |
| | | ⑦ | 研究科担当教員の資格を明確にしているか。（研究科、法務研究科） | | | | | | |
| | | ⑧ | 研究科担当教員を適正配置しているか。（研究科、法務研究科） | | | | | | |
| 303 | 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。 | ⑨ | 教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きを明確にしているか。 | A | A | | A | A | |
| | | ⑩ | 規程等に従った適切な教員人事を行っているか。 | A | | | A | | |
| 304 | 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。 | ⑪ | 教員の教育研究活動等の評価を実施しているか。 | A | | | A | A | |
| | | ⑫ | ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と有効性 | A | | | A | | |

※ 評価基準：基準項目に対する評価　　評価項目：点検・評価項目に対する評価　　評価視点：評価の視点に対する評価

## 4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

| 資料No | 根拠資料の名称 |
|---|---|
| 1 | 関東学院大学教員選考基準に関する社会学部細則 |
| 2 | 関東学院大学社会学部人事委員会規程 |
| 3 | 関東学院大学社会学部教授会規程 |
| 4 | 関東学院大学社会学部運営委員会規程 |
| 5 | 関東学院大学社会学部教務委員会規程 |
| 6 | 関東学院大学社会学部FD委員会規程 |
| 7 | 基準教員表 |
| 8 | 関東学院大学専任教員年齢構成(2015年5月1日現在) |
| 9 | 関東学院大学社会学部教員選考規程 |
| 10 | 関東学院大学人文科学研究所規程 |
| 11 | 人文科学研究所助成基本方針 |

# 2015 年度 自己点検・評価シート

| 学部・研究科等名 | 社会学部 |
|---|---|
| | 文学部(現代社会学科) |

| 基準 No. | 基準項目 |
|---|---|
| 4 | 教育内容・方法・成果 |
| 41 | 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 |

## 1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 411 | 教育目標に基づき学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を明示しているか。 |
| 現在の状況 (年度開始時) | |
| ＜教育目標の明示について＞<br>教育目標(教育方針と目標)を明確に示している(資料 1)。<br><br>＜3 ポリシー(学位授与方針(ディプロマ・ポリシー))の明示について＞<br>教育目標に基づき、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)の 3 つのポリシー(以下「3 ポリシー」という。)を策定・明示している(資料 1)。学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)には、修得すべき学修成果を明確に示している。なお、3 ポリシーは全学方針に則って策定している(資料 2)。<br><br>＜学位授与の要件(卒業の要件)の明示について＞<br>学位授与の要件(卒業の要件)について、学則および履修規程、履修要綱に明確に示している(資料 3～5)。 | |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 412 | 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示しているか。 |
| 現在の状況 (年度開始時) | |
| ＜3 ポリシー(教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー))の明示について＞<br>教育目標に基づき、3 ポリシーを策定・明示している(資料 1)。なお、3 ポリシーは全学方針に則って策定しており、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)は、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性は取って策定している(資料 2)。<br><br>＜科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示について＞<br>授業科目の区分、必修・選択の別、単位数等について、学則および履修規程、履修要綱に明確に示している(資料 3～5)。 | |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 413 | 教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)が、大学構成員(学生・教職員)に周知され社会に公表されているか。 |
| 現在の状況 (年度開始時) | |
| 教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)、学位授与の要件(卒業の要件)、授業科目の区分、必修・選択の別、単位数等について、履修要綱およびホームページに掲載し、学生・教職員への周知および社会への公表を行っている(資料 5～8)。なお、教育目標については履修要綱への掲載が間に合っていない。<br>また、学生に対しては、基礎ゼミナール等で学部の教育課程についてきめ細やかな指導・周知を行っている。さらに、教職員に対しては、学部研修教授会等で周知している。<br><br>今後は、周知方法の有効性について検証していく必要がある。 | |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 414 | 教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の適切性について定期的に検証を行っているか。 |
| 現在の状況 (年度開始時) | |
| 「社会学部FD委員会規程」に基づき、社会学部 FD 委員会において定期的に検証を行うこととしている(資料 9)。 | |

## 2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行なってください。

| 項目No | 点検・評価項目 | |
|---|---|---|
| 411 | 教育目標に基づき学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明示しているか。 | |
| 方針・目標・取組・改善方策等 | | |
| ・全学方針（全学的な合意形成）に基づき 3 ポリシーを再策定・明示する。<br>・教育目標と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を取る。<br>・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に修得すべき学修成果を明示する。 | | |
| 効果が上がった・改善された事項 | | |
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | 伸長方策（将来に向けた発展方策） | |
| 関東学院大学 3 つのポリシーに基づき学部の 3 つのポリシーを再策定し、HP 上に明示するとともに、2016 年度履修要綱に明記することとした。 | 学位授与方針（ディプロマポリシー）と履修科目との対応関係および学修成果が具体的に理解できるように、カリキュラムマップを策定する。 | |
| 教育目標と学位授与方針（ディプロマポリシー）との整合を図るため、履修系統図との対応を定め、これを 2016 年度履修要綱に掲載することとした。 | | |
| 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に修得すべき知識・技能・方法を明示した。 | | |
| 改善すべき事項 | | |
| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） | |
| ホームページおよび履修要綱に記載した学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の内容について学生に理解されたかどうかが不明である。 | 学生への学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の具体的周知方法を検討する。 | |
| 評価の視点 | | |
| ① | 教育目標を明示しているか。 | 明示している/~~していない~~ |
| ② | 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明示しているか。 | 明示している/~~していない~~ |
| ③ | 教育目標と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性は取れているか。 | 取れている/~~取れていない~~ |
| ④ | 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に修得すべき学修成果を明示しているか。 | 明示している/~~していない~~ |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 412 | 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示しているか。 |
| 方針・目標・取組・改善方策等 | |
| ・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の整合性を取る。 | |
| 効果が上がった・改善された事項 | |
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
| 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の整合性を取り、HP 上に明示するとともに、2016 年度履修要綱に掲載することとした。 | 学位授与方針（ディプロマポリシー）と教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との対応関係および学修成果が具体的に理解できるように、カリキュラムマップを策定する。 |
| 改善すべき事項 | |
| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| ホームページおよび履修要綱に記載した教育課程の編成・実施 | 学生への教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の具 |

| | |
|---|---|
| 方針(カリキュラム・ポリシー)の内容について学生に理解されたかどうかが不明である。 | 体的周知方法を検討する。 |

| 評価の視点 | | |
|---|---|---|
| ⑤ | 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示しているか。 | 明示している/~~していない~~ |
| ⑥ | 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)と教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)との整合性は取れているか。 | 取れている/~~取れていない~~ |
| ⑦ | 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示をしているか。 | 明示している/~~していない~~ |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 413 | **教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)が、大学構成員(学生・教職員)に周知され社会に公表されているか。** |

**方針・目標・取組・改善方策等**

・3 ポリシーを再策定し、ホームページの更新および履修要綱への掲載を行う。
・「教育方針と目標」(教育目標)を策定し、ホームページの更新および履修要綱への掲載を行う。
・教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の周知方法の有効性について検証する(検証方法等を検討する)。

**効果が上がった・改善された事項**

| 内容 (特色ある取組や成果創出など) | 伸長方策 (将来に向けた発展方策) |
|---|---|
| 3 ポリシーを再策定し、ホームページの更新および履修要綱への掲載を行った。 | 学外との接点のある学部主催のイベント等にて、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に触れ、学生育成方針を紹介・説明する。 |
| 「教育方針と目標」(教育目標)を策定し、ホームページの更新および履修要綱への掲載を行った。 | |

**改善すべき事項**

| 内容 (明らかになった課題点など) | 改善方策 (将来に向けた発展方策) |
|---|---|
| 教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の周知方法の有効性について検証するまでに至っていない。 | 教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の周知方法について、オリエンテーション等での周知方法を検討する。 |

| 評価の視点 | | |
|---|---|---|
| ⑧ | 大学構成員(学生・教職員)に対する周知方法とその有効性 | 周知している/~~していない~~ |
| ⑨ | 社会への公表方法 | 公表している/~~していない~~ |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 414 | **教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の適切性について定期的に検証を行っているか。** |

**方針・目標・取組・改善方策等**

・社会学部 FD 委員会において具体的な推進内容を企画・運営していく。

**効果が上がった・改善された事項**

| 内容 (特色ある取組や成果創出など) | 伸長方策 (将来に向けた発展方策) |
|---|---|
| 特になし | |

**改善すべき事項**

| 内容 (明らかになった課題点など) | 改善方策 (将来に向けた発展方策) |
|---|---|
| 教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の適切性について学部 FD 委員会での検証は十分とは言えない。 | 教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の適切性について学部 FD 委員会にて、定期的に具体的な推進内容を企画・運営し、検証することとする。 |

| 評価の視点 | | |
|---|---|---|
| ⑩ | 定期的に検証を行っているか。 | ~~検証を行っている~~/行っていない |

## 3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

**S** ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

**A** ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

**B** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

**C** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

<table>
<tr><th rowspan="3">項目No</th><th rowspan="3">点検・評価項目</th><th colspan="2" rowspan="3">評価の視点</th><th colspan="6">自己評価</th></tr>
<tr><th colspan="3">2014 年度</th><th colspan="3">2015 年度</th></tr>
<tr><th>評価視点</th><th>評価項目</th><th>評価基準</th><th>評価視点</th><th>評価項目</th><th>評価基準</th></tr>
<tr><td rowspan="4">411</td><td rowspan="4">教育目標に基づき学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明示しているか。</td><td>①</td><td>教育目標を明示しているか。</td><td>A</td><td rowspan="4">B</td><td rowspan="12">B</td><td>A</td><td rowspan="4">A</td><td rowspan="12">B</td></tr>
<tr><td>②</td><td>学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明示しているか。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td>③</td><td>教育目標と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性は取れているか。</td><td>B</td><td>A</td></tr>
<tr><td>④</td><td>学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に修得すべき学修成果を明示しているか。</td><td>B</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="3">412</td><td rowspan="3">教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示しているか。</td><td>⑤</td><td>教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示しているか。</td><td>A</td><td rowspan="3">B</td><td>A</td><td rowspan="3">A</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との整合性は取れているか。</td><td>B</td><td>A</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示をしているか。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">413</td><td rowspan="2">教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が、大学構成員（学生・教職員）に周知され社会に公表されているか。</td><td>⑧</td><td>大学構成員（学生・教職員）に対する周知方法とその有効性</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td></tr>
<tr><td>⑨</td><td>社会への公表方法</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td>414</td><td>教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の適切性について定期的に検証を行っているか。</td><td>⑩</td><td>定期的に検証を行っているか。</td><td colspan="2">A</td><td colspan="2">B</td></tr>
</table>

※ 評価基準:基準項目に対する評価　　評価項目:点検・評価項目に対する評価　　評価視点:評価の視点に対する評価

## 4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

| 資料No | 根拠資料の名称 |
|---|---|
| 1 | 関東学院大学 理念・目的等 p.10～13 |
| 2 | 2014年度第3回関東学院大学自己点検・評価委員会議事録 報告事項2 |
| 3 | 関東学院大学学則 第9条、14条の3、34条 |
| 4 | 関東学院大学社会学部履修規程 第2、3条、第4条第4項、第19、20条 |
| 5 | 社会学部「2015年度履修要綱」 |
| 6 | 関東学院大学ホームページ「関東学院大学の情報」(1.大学の教育研究上の目的に関すること、5.授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること、6.学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定基準に関すること)<br>http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/basic/about/outline/disclosure.html |
| 7 | 関東学院大学ホームページ「社会学部」<br>http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/basic/faculty/sociology.html |
| 8 | 関東学院大学社会学部ホームページ(オリジナルサイト)「学部案内(社会学部について)」<br>http://shakai.kanto-gakuin.ac.jp/faculty/about/ |
| 9 | 関東学院大学社会学部FD委員会規程 |

# 2015 年度 自己点検・評価シート

| 学部・研究科等名 | 社会学部 |
|---|---|
| | 文学部(現代社会学科) |

| 基準 No. | 基準項目 |
|---|---|
| 4 | 教育内容・方法・成果 |
| 42 | 教育課程・教育内容 |

## 1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 421 | 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 |

**現在の状況 (年度開始時)**

学則に基づき、授業科目を共通科目および専門科目で構成し、教育課程を編成している。また、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、分野や目的に応じて必要な授業科目を開設し、修得すべき科目もしくは単位数を卒業要件として定めている。なお、授業科目の区分の枠にとらわれない履修(授業科目区分毎の卒業所要単位数を超えて履修した科目および他学部や他大学開講科目の履修など)については、自主選択学修の科目として開設し、卒業要件として認めている。さらに、諸課程として、中学校教諭 1 種免許状の社会および高等学校教諭 1 種免許状の地理歴史・公民の教職課程、図書館司書課程、学校図書館司書教諭課程を開設している。他にも、社会調査士の資格申請および社会福祉士国家試験の受験資格に必要な科目も開設している(資料 1～4)。

共通科目は、キリスト教科目、キャリアデザイン科目、教養科目、リテラシー科目、保健体育科目、外国語科目に区分している。なお、キャリアデザイン科目には全学共通科目を配置している。また、リテラシー科目には、初年次教育・高大接続に配慮した「基礎ゼミナール」を 1 年次の必修として配置している。さらに、外国語科目には、第一外国語として英語を必修科目として配置し、第二外国語として英語の他にドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語を選択必修として配置している。

専門科目は、1 群(基幹科目)、2 群(専門基礎科目)、3 群(専門展開科目)、4 群(演習科目)の 4 つの科目群に区分している。なお、1 群(基幹科目)は、選択必修と選択に分けて授業科目を開設している。また、「社会学コース」および「社会福祉学コース」の 2 つのコースを設定し、「社会学コース」には社会調査士資格の取得に必要な科目を配置し、「社会福祉学コース」には社会福祉士国家試験受験資格に必要な科目を配置している。さらに、他方の専門科目から履修することで、専門的な学修をさらに補強することができる。

このように、共通科目と専門科目は、その位置付けを明確にしている。そして、授業科目を順次性に応じて開設し、教育課程を体系的に編成している。共通科目は、専門学修への準備として修得するように機能させている。また、専門科目は、1 群(基幹科目)を 1・2 年次に配置し、2 群(専門基礎科目)、3 群(専門展開科目)と段階的に修得するように機能させている。さらに、授業内容に応じて、授業科目毎に配当セメスターおよび開講学期を設定し、履修科目の順次性を示している。なお、「社会学コース」および「社会福祉学コース」の履修モデルを作成・明示することにより、教育課程の体系性および授業科目の順次性を担保している。

2016 年度には、関連科目を体系的に学ぶことができる副専攻の教育課程を開設し、他学部に提供する予定である。なお、社会学部の学生は、他学部が開設している副専攻の教育課程を履修することができる。

今後は、教育課程の体系性および授業科目の順次性をさらに明確にしていくために、カリキュラム・マップやカリキュラム・フローチャートの導入を、高等教育研究・開発センターを中心に検討していく予定である。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 422 | 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 |

**現在の状況 (年度開始時)**

共通科目は、キリスト教科目において、キリスト教に関する基本的な事項の理解を深めることができる内容となっている。また、教養科目、リテラシー科目、保健体育科目において、学問的な理解と視野を広げるとともに、社会人としての教養を養っている。さらに、外国語科目において、異文化に対する正しい認識と理解という面から、国際化社会に生きる現代人にとって必要不可欠の要件であり、外国語の基礎知識の獲得とその運用能力の向上を目指している。なお、リテラシー科目の「基礎ゼミナール」においては、大学での学びにスムーズに対応できるように、少人数形式の授業の中で大学での学修に必要なプレゼンテーション技能やレポート作成法について初年次教育を行っている。

専門科目は、専門基礎的な科目から専門に関連した科目まで、4 つの科目群編成により、共生社会の構築と現代的な諸問題への応用能力を獲得し、教育目標を達成するために必要な教育を行っている。また、社会学および社会福祉を系統的に履修する「社会学コース」とおよび「社会福祉学コース」の 2 つのコースを設定している。

「社会学コース」は、社会学の歴史、思想、理論と環境、家族などの社会現象について教え、共生社会のあり方を探究し構築する力を

養っている。
「社会福祉学コース」は、児童、障害者、高齢者、社会的弱者などについて教え、福祉社会を担う能力、共生を実践する力を養っている。
いずれコースでも、社会学および社会福祉学の基幹となる教育内容を提供し、学士課程として適切な水準の教育を行っている。

今後は、教育課程(授業科目および教育内容・方法)と学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の整合性を検証するためのツールとして、カリキュラム・マップやカリキュラム・フローチャートの導入を高等教育研究・開発センターを中心に検討していく。

## 2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

| 項目No | 点検・評価項目 | |
|---|---|---|
| 421 | 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 | |
| 方針・目標・取組・改善方策等 | | |
| ・社会学部の副専攻を開設する。<br>・教育課程の体系性および授業科目の順次性をさらに明確にしていくために、カリキュラム・マップやカリキュラム・フローチャートの導入を、高等教育研究・開発センターを中心に検討していく。 | | |
| 効果が上がった・改善された事項 | | |
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | 伸長方策（将来に向けた発展方策） | |
| 社会学部の副専攻を開設した。 | 学生に周知し、履修者を確保する。 | |
| 改善すべき事項 | | |
| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） | |
| 特になし。 | | |
| 評価の視点 | | |
| ① | 必要な授業科目が開設されているか。 | 開設されている/~~されていない~~ |
| ② | 順次性のある授業科目が体系的に配置されているか。 | 配置されている/~~されていない~~ |
| ③ | 専門教育・教養科目の位置づけが適切になされているか。（学部） | 適切である/~~適切でない~~ |
| ④ | コースワークとリサーチワークのバランスが取れているか。（研究科） | 取れている/取れていない |
| ⑤ | 教育課程の体系および順次性を明示しているか。 | 明示している/~~していない~~ |

| 項目No | 点検・評価項目 | |
|---|---|---|
| 422 | 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 | |
| 方針・目標・取組・改善方策等 | | |
| ・共通科目における「英語」科目および「基礎ゼミナール」を必修科目とし、本学部で学ぶために必要な基礎的な知識とスキルの修得を強化する。<br>・教育課程（授業科目および教育内容・方法）と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の整合性を検証するためのツールとして、カリキュラム・マップやカリキュラム・フローチャートの導入を高等教育研究・開発センターを中心に検討していく。 | | |
| 効果が上がった・改善された事項 | | |
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | 伸長方策（将来に向けた発展方策） | |
| 「英語」と「基礎ゼミナール」を必修化した。 | 安定的に運用しつつ、内容を充実化させる。 | |
| 改善すべき事項 | | |
| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） | |
| 特になし。 | | |
| 評価の視点 | | |
| ⑥ | 学士課程教育に相応しい教育内容の提供をしているか。（学部） | 提供している/~~していない~~ |
| ⑦ | 初年次教育・高大接続に配慮した教育内容となっているか。（学部） | なっている/~~なっていない~~ |
| ⑧ | 専門分野の高度化に対応した教育内容を提供しているか。（研究科） | 提供している/していない |
| ⑨ | 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供をしているか。（法務研究科） | 提供している/していない |
| ⑩ | 教育内容の適切性について定期的に検証を行っているか。 | 検証を~~行っている~~/行っていない |

## 3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

**S** ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

**A** ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

**B** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

**C** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

<table>
<tr><th rowspan="3">項目No</th><th rowspan="3">点検・評価項目</th><th rowspan="3" colspan="2">評価の視点</th><th colspan="6">自己評価</th></tr>
<tr><th colspan="3">2014 年度</th><th colspan="3">2015 年度</th></tr>
<tr><th>評価視点</th><th>評価項目</th><th>評価基準</th><th>評価視点</th><th>評価項目</th><th>評価基準</th></tr>
<tr><td rowspan="5">421</td><td rowspan="5">教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</td><td>①</td><td>必要な授業科目が開設されているか。</td><td>A</td><td rowspan="5">A</td><td rowspan="10">A</td><td>A</td><td rowspan="5">A</td><td rowspan="10">B</td></tr>
<tr><td>②</td><td>順次性のある授業科目が体系的に配置されているか。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td>③</td><td>専門教育・教養科目の位置づけが適切になされているか。（学部）</td><td>B</td><td>A</td></tr>
<tr><td>④</td><td>コースワークとリサーチワークのバランスが取れているか。（研究科）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>教育課程の体系および順次性を明示しているか。</td><td>-</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="5">422</td><td rowspan="5">教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</td><td>⑥</td><td>学士課程教育に相応しい教育内容の提供をしているか。（学部）</td><td>A</td><td rowspan="5">B</td><td>A</td><td rowspan="5">B</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>初年次教育・高大接続に配慮した教育内容となっているか。（学部）</td><td>B</td><td>A</td></tr>
<tr><td>⑧</td><td>専門分野の高度化に対応した教育内容を提供しているか。（研究科）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>⑨</td><td>理論と実務との架橋を図る教育内容の提供をしているか。（法務研究科）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>⑩</td><td>教育内容の適切性について定期的に検証を行っているか。</td><td>-</td><td>B</td></tr>
</table>

※ 評価基準:基準項目に対する評価　　評価項目:点検・評価項目に対する評価　　評価視点:評価の視点に対する評価

## 4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

| 資料 No | 根拠資料の名称 |
|---|---|
| 1 | 関東学院大学 理念・目的等 p.10～13 |
| 2 | 関東学院大学学則 第8、9条、14条の3、19条、19条の2、25～28、31条の2、34条 |
| 3 | 関東学院大学社会学部履修規程 |
| 4 | 社会学部「2015年度履修要綱」 |

# 2015 年度 自己点検・評価シート

| 学部・研究科等名 | 社会学部 |
|---|---|
| | 文学部(現代社会学科) |

| 基準 No. | 基準項目 |
|---|---|
| 4 | 教育内容・方法・成果 |
| 43 | 教育方法 |

## 1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 431 | 教育方法および学修指導は適切か。 |

**現在の状況（年度開始時）**

教育目標の達成に向け、授業科目毎に到達目標を定め、適切な授業形態(講義、演習、実験、実習等)を採用している。例えば、講義科目では主に教養と知識を養い、演習科目ではそのスキルを育成し、実習科目やフィールドワークでは社会参加を通した多文化共生を生み出す学修を行う。授業科目毎の到達目標および授業形態はシラバスに明記している(資料 1)。授業形態は履修要綱にも明記している(資料 2)。

また、授業で準備学修について具体的な指示を与えることにより、学生の十分な学修時間を確保し、履修登録した科目を確実に修得するよう指導しているため、各学期(セメスター)の履修科目登録の上限について 22 単位と履修規程に定め、履修要綱にも明記している(資料 2、3)。ただし、諸課程開講科目の単位については、この上限に算入しない。また、4 年次進級時点で上限まで履修科目を登録してもなお、卒業所要単位数または要件あるいは国家試験受験資格取得の所要単位数に達しない学生に限り、特例として各学期(7・8 セメスター)に各 24 単位を上限として履修科目を登録することを認めている。なお、総合的な教育効果等を考慮し、他にも履修科目登録の上限に含めない場合がある。

なお、シラバスおよび授業形態、履修科目登録の上限はホームページでも公表している(資料 4、5)。

そして、履修要綱およびシラバス等に基づいた履修指導を行っている。学期(セメスター)毎にオリエンテーションを実施し、学生に成績表を個別に配付するとともに履修指導を行っている。成績不振の学生については、教員数名ずつによる面談を別途行い、履修指導を行うとともに今後の学生生活の改善等について相談・指導を行っている。さらに、授業科目担当者の全員にオフィスアワーを設定し、シラバスに明示することで、学生への学修指導のさらなる充実を図っている。

また、語学の授業においては、CALL 教室を積極的に活用するとともに、ICT 機器を取り入れ授業への関心を高め、能動的な学修を進めるためにプレゼンテーション、グループワークなどを取り入れている。他にも、多文化共生を目指したフィールドワーク科目の提供も行っている。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 432 | シラバスに基づいて授業が展開されているか。 |

**現在の状況（年度開始時）**

WEB シラバスシステムを導入し、全学部・研究科で統一書式による運用を行なっている。

また、シラバスの内容に対する組織的な検証体制は、教務委員会と FD 委員会が連携してシラバスチェックを行っているが、複数の科目にて「授業計画」および「成績評価方法・基準」に関して不備が認められている。

なお、授業内容・方法とシラバスとの整合性については、毎学期の「学生による授業改善アンケート」において確認することができる。「授業は授業概要(シラバス)に対応していました」という質問に対して、5 段階(1:全くそう思わない、2:あまりそう思わない、3:どちらともいえない、4:ややそう思う、5:強くそう思う)による学生の評価を受ける。文学部による 2014 年度の実施結果では、春学期の平均は 3.9 であり、秋学期の平均も 3.9 であった。比較的肯定的な評価であり、概ねシラバスに基づいた授業が展開されている(授業内容・方法とシラバスとの整合性は取れている)と言える(資料 6、7)。

今後は、教育目標の達成に向けて、教育方法および学修指導をより適切に行っていくために、シラバスの内容と学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の整合性を検証するためのツールとして、カリキュラム・マップの作成を高等教育研究・開発センターを中心に検討していく。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 433 | 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 |

**現在の状況（年度開始時）**

学則に基づき履修規程を定め、成績評価および単位認定を適切に行っている(資料 3、8)。また、GPA 制度も導入している。

単位認定について、単位の算定基準を定め、それに基づき授業科目の単位数を設定している。また、海外語学研修およびインターンシップ研修の単位認定も行っている。さらに、「学生の外国留学に関する規程」(資料 9)に基づき留学により修得した単位、大学院特別履修生として大学院文学研究科博士前期課程で認定された単位、単位互換協定を結んだ他大学で単位互換履修生等として修得した単位、文部科学大臣が定める技能審査等の認定評価等、新入生の既修得単位についても、合わせて 60 単位を超えない範囲で単位認定することができる。ただし、単位互換協定を結んだ他大学で単位互換履修生等として修得した単位については 12 単位、新入生の既修得単位については 30 単位が上限である。他にも、編入学生の既修得単位の認定も行っている。これらの既修得等の単位認定は、教務委員会および教授会の審議を経て承認している。

なお、成績評価方法・基準については、シラバスにより学生に明示している(資料 1)。また、成績の評価および単位制度、単位の認定、GPA の算出方法等、履修規程については、履修要綱において学生に明示している(資料 2)。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 434 | 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。(※ここでの FD は「教育課程や教育内容・方法の改善」に関する活動を指す。「教員の資質向上」に関する活動は、点検・評価項目 No.304 参照。) |

**現在の状況 (年度開始時)**

高等教育研究センターが中心的な役割を担い、教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけるために、主に以下の方策を全学的に実施している。

・学生による授業改善アンケート
・公開授業(専任教員)
・シラバス記載事項等の見直し(内容の充実)
・段階的・組織的なシラバスチェック体制の整備
・教育・研究等活動に関する自己点検・評価(専任教員)

なお、公開授業について、本学部では、専任教員に対して 1 科目以上の参観を義務づけている。

本学部では、FD委員会を中心に教育課程や教育内容・方法の改善を進めている(資料 10)。

FD 委員会では、授業改善アンケートの結果分析を行っている。文学部で実施した 2014 年度のアンケート結果では、各項目の評価の傾向は前年度とほぼ同様であったが、秋学期には全 18 項目中 8 項目で評価が上がり、下がった項目はないため、全体として上昇傾向にある(資料 6、7)。また、2014 年度秋学期には、教室の設備に対して改善を要望する意見が多く認められた(資料 7)。

さらに、優秀授業顕彰制度を設け、優秀授業実践教員の表彰を行っている。

他にも、公開授業に基づく授業方法の改善について、教務委員会と連携して行っている。なお、現状の課題は、授業参観者数が少ないことである。

## 2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行なってください。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 431 | 教育方法および学修指導は適切か。 |

**方針・目標・取組・改善方策等**

・各学期(セメスター)の履修科目登録の上限を 22 単位としたことによる、授業における準備学修について、学生の十分な学修時間の確保および履修登録した科目の確実な修得などの検証を行なう。
・質疑応答やプレゼンテーション、グループワークなどを取り入れ、相互に意思疎通を図りながら学生と教員との双方向の授業を展開し、教員と学生が相互にかかわりあうことで構築する授業を目指す。
・演習科目では、講義科目で得た知識・技能を基に、地域社会や国際社会をフィールドとして学生自身が社会的な実践課題に取り組むことができるようにする。また、このような一連の教育方法により、知識の修得にとどまらず、学生自身が社会貢献する「実践力」を高める指導を行う。そして、この主体的学びを一層効果的に推し進めるために、ICTを効果的に活用し、教員と学生のインタラクティブな関係を形成する一助とする。

**効果が上がった・改善された事項**

| 内容（特色ある取組や成果創出など） | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
|---|---|
| 従来、成績不振の学生に対する面談は、学部教務委員が行っていたが、当該学生のアドバイザー教員および専門ゼミナール指導教員が行うように改めた。普段から接する機会の多い教員が面談することにより、迅速な問題発見および支援を行うのが目的である。 | 2015 年度から導入した学修指導の改善策については、その有効性を検証の上、改善を加えつつ継続する。 |
| 成績不振学生面談の対象となる成績について、セメスターごとに基準を設定。従来、修得単位数のみで判定していたものに、GPA も加えた。同基準は、2015年度秋学期末から導入する。 | |
| 従来、面談対象であることは、当該学生にのみ連絡していたが、2015 年秋学期末からは、保証人にも連絡し、学修指導の充実を図る。 | |

**改善すべき事項**

| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
|---|---|
| 特になし。 | |

**評価の視点**

| | | |
|---|---|---|
| ① | 教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)を採用しているか。 | 採用している/~~していない~~ |
| ② | 履修科目登録の上限を適切に設定しているか。 | 設定している/~~していない~~ |
| ③ | 学修指導が充実しているか。 | 充実している/~~していない~~ |
| ④ | 学生の主体的参加を促す授業方法を用いているか。 | 用いている/~~用いていない~~ |
| ⑤ | 研究指導計画に基づき研究指導・学位論文作成指導を行っているか。(研究科) | 行っている/行っていない |
| ⑥ | 実務的能力の向上を目指した教育方法を用い、学修指導を行っているか。(法務研究科) | 行っている/行っていない |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 432 | シラバスに基づいて授業が展開されているか。 |

**方針・目標・取組・改善方策等**

・教務委員会とFD委員会が連携し、段階的に組織的なシラバスチェック体制の整備を進め、授業内容・方法とシラバスとの整合を図る。
・シラバスに不備のある教員に対して訂正を求める。
・授業改善アンケートの関連設問により、授業内容・方法とシラバスとの相関性について分析する。

| 効果が上がった・改善された事項 | |
|---|---|
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
| 2015 年度シラバスについては、「授業計画」「成績評価方法・基準」を中心にシラバスチェックを実施。秋学期開講科目で特に修正を必要とする場合は、科目担当教員に修正を依頼し、秋学期オリエンテーションまでに、修正済みシラバスを公開した。<br>2016 年度シラバスについては、チェック対象を全項目に拡大。時期も前倒しし、シラバス入力締切り後、2015年度中にシラバスチェックを終了させ、修正済みシラバスを春学期オリエンテーションまでに公開できるよう、作業を行っている。 | シラバスチェックにおいては、学位授与方針（ディプロマポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）との整合性をいっそう重視。チェックのためのツールとして、カリキュラム・マップを利活用していく。 |
| 改善すべき事項 | |
| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| シラバス記載事項のうち、「授業計画」「成績評価方法・基準」に関する不備が依然として多い。 | シラバス執筆依頼時の注意文書を見直し、執筆者へいっそうの周知徹底を図る。 |

| 評価の視点 | | |
|---|---|---|
| ⑦ | シラバスの内容の充実を図っているか。 | 図っている/~~図っていない~~ |
| ⑧ | 授業内容・方法とシラバスとの整合性は取れているか。 | 取れている/~~取れていない~~ |
| ⑨ | シラバスの内容に対する検証を組織的に行っているか。 | 行っている/~~行っていない~~ |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 433 | 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 |

| 方針・目標・取組・改善方策等 |
|---|
| ・成績評価および単位認定を適切に行う。 |

| 効果が上がった・改善された事項 | |
|---|---|
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
| 特になし。 | |
| 改善すべき事項 | |
| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| 特になし。 | |

| 評価の視点 | | |
|---|---|---|
| ⑩ | 成績評価方法・評価基準を明示しているか。 | 明示している/~~していない~~ |
| ⑪ | 単位認定は単位制度に基づき適切に行われているか。 | 行われている/~~行われていない~~ |
| ⑫ | 既修得単位認定は適切に行われているか。 | 行われている/~~行われていない~~ |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 434 | 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。（※ここでの FD は「教育課程や教育内容・方法の改善」に関する活動を指す。「教員の資質向上」に関する活動は、点検・評価項目 No.304 参照。） |

| 方針・目標・取組・改善方策等 |
|---|
| ・FD委員会において授業改善アンケートの結果を分析し、教務委員会と連携して授業改善へと結びつける。<br>・教室の設備に対する改善を図る。（「学生による授業改善アンケート」において、改善を要望する意見が多く認められた。）<br>・公開授業において、非常勤を含めた全教員が授業を公開するとともに、専任教員全員に対して 1 科目以上の参観を義務付け、授業方法の改善につなげる。また、授業参観者数の増加を図る。 |

| 効果が上がった・改善された事項 | |
|---|---|
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
| 「学生による授業改善アンケート」について、FD 委員会委員（秋学期は学部教務委員会委員も含む）および希望者により、中間アンケートを実施した。 | FD 委員会を中心に、中間アンケートの有効性を検証する。 |
| 改善すべき事項 | |
| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| 中間アンケートは Web 上で実施したが、学生の回答率は必ずしも高くなかった。 | Web アンケートの回答率を高めるために、効果的な周知方法・実施方法を検討する必要がある。 |

| | |
|---|---|
| 公開授業参観者数の増加が見られない。 | より参観しやすい方法等、改善策を検討する必要がある。 |

| 評価の視点 | | |
|---|---|---|
| ⑬ | 教育課程や教育内容・方法・成果の改善を図るための組織的研修・研究を実施しているか。 | 実施している/~~していない~~ |

## 3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

**S** ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

**A** ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

**B** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

**C** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

| 項目No | 点検・評価項目 | 評価の視点 | | 自己評価 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 2014年度 | | | 2015年度 | | |
| | | | | 評価視点 | 評価項目 | 評価基準 | 評価視点 | 評価項目 | 評価基準 |
| 431 | 教育方法および学修指導は適切か。 | ① | 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）を採用しているか。 | A | A | A | A | A | A |
| | | ② | 履修科目登録の上限を適切に設定しているか。 | A | | | A | | |
| | | ③ | 学修指導が充実しているか。 | A | | | A | | |
| | | ④ | 学生の主体的参加を促す授業方法を用いているか。 | A | | | A | | |
| | | ⑤ | 研究指導計画に基づき研究指導・学位論文作成指導を行っているか。（研究科） | | | | | | |
| | | ⑥ | 実務的能力の向上を目指した教育方法を用い、学修指導を行っているか。（法務研究科） | | | | | | |
| 432 | シラバスに基づいて授業が展開されているか。 | ⑦ | シラバスの内容の充実を図っているか。 | A | A | | A | A | |
| | | ⑧ | 授業内容・方法とシラバスとの整合性は取れているか。 | A | | | A | | |
| | | ⑨ | シラバスの内容に対する検証を組織的に行っているか。 | A | | | A | | |
| 433 | 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 | ⑩ | 成績評価方法・評価基準を明示しているか。 | A | A | | A | A | |
| | | ⑪ | 単位認定は単位制度に基づき適切に行われているか。 | A | | | A | | |
| | | ⑫ | 教育課程や教育内容・方法・成果の改善を図るための組織的研修・研究を実施しているか。 | A | | | A | | |
| 434 | 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 | ⑬ | 教育課程や教育内容・方法・成果の改善を図るための組織的研修・研究を実施しているか。 | A | | | A | | |

※ 評価基準:基準項目に対する評価　　評価項目:点検・評価項目に対する評価　　評価視点:評価の視点に対する評価

## 4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

| 資料No | 根拠資料の名称 |
|---|---|
| 1 | 年間の授業計画の概要(Web シラバス)<br>https://info.kanto-gakuin.ac.jp/portal/slbsskgr.do?clearAccessData=true&contenam=slbsskgr&kjnmnNo=7 |
| 2 | 社会学部「2015 年度履修要綱」 |
| 3 | 関東学院大学社会学部履修規程 |
| 4 | 関東学院大学ホームページ「5.授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること」<br>http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/basic/about/outline/disclosure.html#anchor-05 |
| 5 | 関東学院大学ホームページ「6.学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定基準に関すること」<br>http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/basic/about/outline/disclosure.html#anchor-06 |
| 6 | 2014 年度春学期実施「学生による授業改善アンケート報告書」(文学部) |
| 7 | 2014 年度秋学期実施「学生による授業改善アンケート報告書」(文学部) |
| 8 | 関東学院大学学則　第 9～13、20～22 条 |
| 9 | 学生の外国留学に関する規程 |
| 10 | 関東学院大学社会学部FD委員会規程 |

# 2015 年度 自己点検・評価シート

| 学部・研究科等名 | 社会学部 |
|---|---|
| | 文学部（現代社会学科） |

| 基準 No. | 基準項目 |
|---|---|
| 4 | 教育内容・方法・成果 |
| 44 | 成果 |

## 1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 441 | 教育目標に沿った成果が上がっているか。 |

**現在の状況（年度開始時）**

卒業判定の合格率（5 月 1 日現在の最終学年在籍学生数に対する卒業判定合格者数の割合）、就職率（就職希望者数に対する就職者数の割合）、進学者数、交換・派遣留学生および語学研修参加者数、各種資格試験結果について、教育の成果を示す指標として捉えている。

なお、各種資格試験結果では、社会福祉士について国家試験対策講座を実施し、現在の合格率は概ね全国平均（30％前後）とほぼ同水準であり、適切な水準の成果を挙げていると言える。合わせて、社会調査士の資格取得者数は、全国でも 5 位以内に入る人数（40～50 名）であり、大きな成果を挙げていると言える。

また、毎学期実施している「学生による授業改善アンケート」では、「授業の到達目標及びテーマに掲げられている知識やスキルが身につくと思いますか」という設問に対し、文学部による 2013 年度の実施結果では、5 段階評価（1：全くそう思わない、2：あまりそう思わない、3：どちらともいえない、4：ややそう思う、5：強くそう思う）において、春学期の平均は 3.7 であり、秋学期の平均は 3.8 であった。2014 年度の実施結果では、学部全体の春学期の平均は 3.8 であり、秋学期の平均も 3.8 であった。これは、教育目標に沿った成果に関連する学生の評価として、概ね肯定的な評価を維持していると言える(資料 1～4)。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 442 | 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。 |

**現在の状況（年度開始時）**

学位授与基準（卒業要件）については、履修規程に定め、履修要綱等によって学生に明示している(資料 5、6)。学位授与手続き（卒業査定）については、学則に則り教授会の審議事項としている(資料 7)。なお、より厳正に審査するため、教務委員会での審議を受けたうえで、教授会で同様の審議を行っている。

## 2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行なってください。

| 項目No | 点検・評価項目 | |
|---|---|---|
| 441 | 教育目標に沿った成果が上がっているか。 | |
| 方針・目標・取組・改善方策等 | | |
| ・各指標について、さらなる高評価を目指す（専任教員による補講等の対策講座を充実させ、社会福祉士資格の国家試験合格者数を増加させるなど）。 | | |
| 効果が上がった・改善された事項 | | |
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
| 社会福祉士資格の国家試験に向けた対策講座を実施した。 | | 対策講座の内容をさらに充実させる。 |
| 改善すべき事項 | | |
| 内容（明らかになった課題点など） | | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| 社会福祉士資格の国家試験の合格者数が２名に留まった。 | | 合格者数の増加を目指す。 |
| 評価の視点 | | |
| ① | 学生の学修成果を測定するための評価指標を開発しているか。 | 開発している/~~していない~~ |
| ② | 学生の自己評価、卒業後の評価を行っているか。 | ~~行っている~~/行っていない |

| 項目No | 点検・評価項目 | |
|---|---|---|
| 442 | 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。 | |
| 方針・目標・取組・改善方策等 | | |
| ・学位授与（卒業・修了認定）を適切に行う。 | | |
| 効果が上がった・改善された事項 | | |
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
| 学位授与については本学部のディプロマ・ポリシーに基づき適切に行われている。 | | 適切な授与の継続に努める。 |
| 改善すべき事項 | | |
| 内容（明らかになった課題点など） | | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| 特になし。 | | |
| 評価の視点 | | |
| ③ | 学位授与基準、学位授与手続きは適切か。 | 適切である/~~適切でない~~ |
| ④ | 学位審査および修了認定の客観性・厳格性確保の方策を講じているか。（研究科、法務研究科） | 講じている/講じていない |

## 3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

**S** ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

**A** ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

**B** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

**C** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

| 項目No | 点検・評価項目 | 評価の視点 | | 自己評価 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 2014年度 | | | 2015年度 | | |
| | | | | 評価視点 | 評価項目 | 評価基準 | 評価視点 | 評価項目 | 評価基準 |
| 441 | 教育目標に沿った成果が上がっているか。 | ① | 学生の学修成果を測定するための評価指標を開発しているか。 | A | B | B | A | B | B |
| | | ② | 学生の自己評価、卒業後の評価を行っているか。 | B | | | B | | |
| 442 | 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。 | ③ | 学位授与基準、学位授与手続きは適切か。 | | A | | | A | |
| | | ④ | 学位審査および修了認定の客観性・厳格性確保の方策を講じているか。（研究科、法務研究科） | | | | | | |

※ 評価基準:基準項目に対する評価　　評価項目:点検・評価項目に対する評価　　評価視点:評価の視点に対する評価

## 4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

| 資料No | 根拠資料の名称 |
|---|---|
| 1 | 2013年度春学期実施「学生による授業改善アンケート報告書」（文学部） |
| 2 | 2013年度秋学期実施「学生による授業改善アンケート報告書」（文学部） |
| 3 | 2014年度春学期実施「学生による授業改善アンケート報告書」（文学部） |
| 4 | 2014年度秋学期実施「学生による授業改善アンケート報告書」（文学部） |
| 5 | 関東学院大学社会学部履修規程 第19、20条 |
| 6 | 社会学部「2015年度履修要綱」 |
| 7 | 関東学院大学学則 第52条第2項第2号 |

# 2015 年度 自己点検・評価シート

| 学部・研究科等名 | 社会学部 |
|---|---|

| 基準 No. | 基準項目 |
|---|---|
| 5 | 学生の受け入れ |

## 1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 501 | 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明示しているか。 |

**現在の状況（年度開始時）**

＜3 ポリシー（入学者受入方針（アドミッション・ポリシー））について＞

新学部（国際文化学部・社会学部）の設置準備委員会において、両学部の 3 ポリシーを新たに策定した。その際、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持つように策定した。媒体間の整合性を保つために、設置準備委員会で決定した原案を出典として、学部ホームページ・学生募集要項・学部パンフレット 3 ポリシーを公開している（資料 1、2）。

2014 年度に再策定した大学全体の 3 ポリシーを基準に、学部・学科のポリシーの作成フォーマットを共有して作成・修正中であるため、現在は、大学と学部間での入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）の整合性は取れていない。

＜修得しておくべき知識等の内容・水準について＞

各種入学試験における試験科目において、教科・科目等を明示しているものの、高等学校での学習で求める科目と修得しておいて欲しい具体的な内容については明示していない。

＜障がいのある学生の受け入れについて＞

障がいのある学生の受け入れ方針は、大学全体の姿勢に準じて社会学部も対応している。受験生からの事前の申し出には、原則として来校を求めて、就学上の措置まで見据えて、学部長・学科長が直接、事前相談に応じている。その上で、学部学科の各入学試験において適切な措置を取り、障がいのある学生も公平に受け入れている。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 502 | 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。 |

**現在の状況（年度開始時）**

学生募集および入学者選抜は、文部科学省の定める「大学入学者選抜実施要項」に則り、大学の「入学者選抜規程」を定めて実施している。入学者選抜規程により大学入試委員会を設置し、各入学試験に関わる基本事項（入学者選抜方法（入試区分）、入試日程、入試実施体制、入試査定原案（入試区分毎の合格者数）など）を審議している（資料 3、4）。

社会学部では、大学入試委員会で決定された方針にしたがって、学生募集・入学者選抜を行っている。

各入学試験においては、学部・学科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った試験科目を課している。出願資格、選抜方法については、入試区分ごとに詳細に定義し、入試広報やホームページで公開している。また、入試区分ごとの募集要項を公開するとともに、受験生に対して試験問題および正解、AO 入学試験の課題、志願者数、合格者数、倍率等を公開して示すことで、入学者選抜における透明性を確保している。

合否判定は、すべての入学試験で学科委員会および学部入試委員会にて査定原案を作成し、教授会で審議・決定するプロセスを踏み公正・厳正を期している。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 503 | 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。 |

**現在の状況（年度開始時）**

2015 年 5 月 1 日現在における 1 年次の定員充足率（収容定員に対する在籍学生数比率）は 1.12（収容定員 180 名：在籍学生数 201 名）であり、適切な範囲である（資料 5）。

大学入試委員会で審議した合格者数案に沿って適正な入学者数とするよう維持している。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 504 | 学生募集および入学者選抜は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。 |

**現在の状況（年度開始時）**

社会学部では、毎年、入試分析チームを編成し、入学者選抜が公正かつ適切におこなわれているかを入試区分毎に定期的に検証している。また、大学の入試センターでは各学部から選出されるセンター次長を中心に各学部の入試動向を入試区分毎に検証している。

学部の入試委員会では、入試分析チームと入試センターから提示される資料に基づいて、学部全体の学生募集と入学者選抜が入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)のもとに公平かつ的確に行われているかを入試区分毎に検証し、全体の総括を行っている。 この検証を経て、学部の入試員会では、毎年、各入試区分における選抜方法と募集人数、指定校推薦の基準を見直している。

## 2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」(現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

| 項目No | 点検・評価項目 | |
|---|---|---|
| 501 | 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明示しているか。 | |
| 方針・目標・取組・改善方策等 | | |
| ・2014 年度に引き続き、大学ホームページ、学部ホームページ、学生募集要項、大学案内などの広報資料で入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明示し、公開する。明示媒体によって齟齬がないかを検証し、齟齬があれば修正する。<br>・求める学生像と育成する学生像をより鮮明にして明示する。<br>・全学方針のもとで再策定中の 3 ポリシーを明示し、学部が提示している 3 ポリシー間の整合性が取れているかを検証する。<br>・各種入学試験において、高等学校での学習で求める科目と修得しておいてほしい内容について明示できるように検討する。<br>・障がいのある学生の受け入れ体制をさらに整える。 | | |
| 効果が上がった・改善された事項 | | |
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
| 大学ホームページ、学生募集要項、大学案内などの広報資料で入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明示した。 | | 継続実施 |
| 障がいのある学生との入試事前面談を実施（2 件）し、入試上の配慮及び入学後に対応すべき課題等について、入試センター、受験生および保護者、学部教員のあいだでコミュニケーションを図り、その内容を相互に了解した。いずれも社会学部への出願につながった。 | | |
| 改善すべき事項 | | |
| 内容（明らかになった課題点など） | | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| 障害者差別解消法の基本理念に基づく、障がいのある学生の受入方針および具体的な対応策の共有・公開 | | 障がいのある学生の受入方針および具体的な対応策について、大学ウェブサイト等で提示する |
| 評価の視点 | | |
| ① | 求める学生像（入学者受入方針（アドミッション・ポリシー））を明示しているか。 | 明示している/~~していない~~ |
| ② | 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）との整合性は取れているか。 | 取れている/~~取れていない~~ |
| ③ | 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示しているか。 | 明示している/~~していない~~ |
| ④ | 障がいのある学生の受け入れ方針があるか。 | 方針がある/~~ない~~ |

| 項目No | 点検・評価項目 | |
|---|---|---|
| 502 | 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。 | |
| 方針・目標・取組・改善方策等 | | |
| ・社会学部での入学者受入方針に即した募集方法、選抜方法を検討する（指定校推薦枠、AO 入試等の検討を含む）。 | | |
| 効果が上がった・改善された事項 | | |
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
| 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を各募集要項、ガイドブック、ホームページ等で前年度より具体的に明示した。 | | 継続実施 |

| | |
|---|---|
| 入学者選抜方法、入試日程、募集定員、入試実施体制、入試査定原案等を、現代社会学科委員会及び社会学部入試委員会で審議している。とくに入試査定においては入試分析チームでの検討内容を重視して進めている。 | |
| 2016 年度入試の志願者数の実績をもとに、区分ごとの募集定員を修正した。 | |

| 改善すべき事項 | |
|---|---|
| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| 特になし。 | |

| 評価の視点 | | |
|---|---|---|
| ⑤ | 学生募集方法、入学者選抜方法は適切か。 | 適切である/~~適切でない~~ |
| ⑥ | 入学者選抜において透明性を確保するための措置は適切か。 | 適切である/~~適切でない~~ |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 503 | **適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。** |

| 方針・目標・取組・改善方策等 |
|---|
| ・学部入試委員会において、過年度の志願者動向、他大学の志願者動向を踏まえた上で、入学者数、在籍学生数が入学定員、収容定員と大幅に乖離することがないように各入試区分での獲得目標、合格者数案を策定する。<br>・在籍学生数比率が適正の範囲になるように学生募集を実施する。 |

| 効果が上がった・改善された事項 | |
|---|---|
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
| 学部入試委員会において区分別獲得目標の年度内の修正を行った。 | 補助金不交付基準超過のリスクを踏まえ、より慎重な査定を行う。 |
| 入試募集定員・目標手続者数と補助金不交付基準を踏まえ、入試区分ごとに慎重に査定を行った結果、募集定員を超える手続者数を確保することができた。 | |

| 改善すべき事項 | |
|---|---|
| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| 後期入試の難易度が、それ以外の入試と比べて著しく高くなった | AO 入試査定における合格難易度の調整を図る。 |
| | 一般入試における、手続き状況を確認しながら、より柔軟な入試査定を行う。 |

| 評価の視点 | | |
|---|---|---|
| ⑦ | 収容定員に対する在籍学生数比率は適切か。 | 適切である/~~適切でない~~ |
| ⑧ | 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関して対応しているか。 | 対応している/~~していない~~ |

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 504 | **学生募集および入学者選抜は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。** |

| 方針・目標・取組・改善方策等 |
|---|
| ・入試センターの外訪員から、近隣の高校の状況と今後の広報活動に向けてアピールする点について情報を得ることができたことから、外訪員と連絡を密にし、状況に応じた迅速な広報戦略を検討する。<br>・指定校へ新学部（社会学部、国際文化学部）設立の案内書（学部パンフレット等）を、各学部長の挨拶文を添えて送付した結果、両学部とも指定校推薦入試の志願者数を前年度より大幅に増やすことができた。指定校推薦入試の志願者を安定的に確保する。 |

| 効果が上がった・改善された事項 | |
|---|---|
| 内容（特色ある取組や成果創出など） | 伸長方策（将来に向けた発展方策） |
| 広報のアピールポイントの確認や指定校推薦の枠を設定するにあたり、入試外訪員からの情報や要望を反映させるように努めた。 | 志願者確保に向けた企画の実施とその検証に努める。 |
| 学部の予算で独自のパンフレットを作成し、オープンキャンパス等で配布した。 | |
| 入試説明会やオープンキャンパスで社会学部の説明に参加した学生を対象に、「メディア・コンテンツ演習」受講生が作成したオリジナル雑誌『Gen-Kan』、社会学部と共同募金会の提携企画による「寄附付きボールペン」を、趣旨の説明を行ったうえで配布した。 | |

| 改善すべき事項 | |
|---|---|
| 内容（明らかになった課題点など） | 改善方策（将来に向けた発展方策） |
| AO 入試の志願者は増加(115.6%)したが、指定校推薦入試の志願者は(減少)した。ただし、入試区分全体における位置づけからすれば、前年度と比べて 2016 年度の方が適正な規模である。 | AO 入試および指定校推薦入試志願者数を適切な規模で維持する。 |
| 一般入試及びセンター利用入試の志願者は減少した(93.0%, 79.0%)。 | 一般入試・センター利用入試の志願者増に向けた取り組みを検討する。 |

| 評価の視点 | | |
|---|---|---|
| ⑨ | 定期的に検証を行っているか。 | 検証を行っている/~~行っていない~~ |

## 3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

**S** ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

**A** ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

**B** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

**C** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

<table>
<tr><th rowspan="3">項目No</th><th rowspan="3">点検・評価項目</th><th rowspan="3" colspan="2">評価の視点</th><th colspan="6">自己評価</th></tr>
<tr><th colspan="3">2014 年度</th><th colspan="3">2015 年度</th></tr>
<tr><th>評価視点</th><th>評価項目</th><th>評価基準</th><th>評価視点</th><th>評価項目</th><th>評価基準</th></tr>
<tr><td rowspan="4">501</td><td rowspan="4">入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明示しているか。</td><td>①</td><td>求める学生像（入学者受入方針（アドミッション・ポリシー））を明示しているか。</td><td>A</td><td rowspan="4">B</td><td rowspan="9">B</td><td>A</td><td rowspan="4">A</td><td rowspan="9">A</td></tr>
<tr><td>②</td><td>学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）との整合性は取れているか。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td>③</td><td>入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示しているか。</td><td>B</td><td>A</td></tr>
<tr><td>④</td><td>障がいのある学生の受け入れ方針があるか。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">502</td><td rowspan="2">入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。</td><td>⑤</td><td>学生募集方法、入学者選抜方法は適切か。</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>入学者選抜において透明性を確保するための措置は適切か。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">503</td><td rowspan="2">適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</td><td>⑦</td><td>収容定員に対する在籍学生数比率は適切か。</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td></tr>
<tr><td>⑧</td><td>定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関して対応しているか。</td><td>A</td><td>A</td></tr>
<tr><td>504</td><td>学生募集および入学者選抜は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。</td><td>⑨</td><td>定期的に検証を行っているか。</td><td colspan="2">A</td><td colspan="2">A</td></tr>
</table>

※ 評価基準:基準項目に対する評価　　評価項目:点検・評価項目に対する評価　　評価視点:評価の視点に対する評価

## 4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

| 資料 No | 根拠資料の名称 |
|---|---|
| 1 | 関東学院大学ホームページ「社会学部　三つのポリシー」<br>http://kokusai.kanto-gakuin.ac.jp/basic/faculty/sociology.html |
| 2 | 2016 年度学生募集要項 |
| 3 | 関東学院大学入学者選抜規程 |
| 4 | 関東学院大学入試委員会規程 |
| 5 | 2015 年度大学基礎データ 表４ |

# 2015 年度 自己点検・評価シート

| 学部・研究科等名 | 社会学部 |
|---|---|
| | 文学部（現代社会学科） |

| 基準 No. | 基準項目 |
|---|---|
| 7 | 教育研究等環境 |

## 1. 現状の確認【年度始】

点検・評価項目毎に、年度開始時の現状について、具体的・簡潔に記述してください。

| 項目No | 点検・評価項目 |
|---|---|
| 704 | 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 |
| 現在の状況（年度開始時） | |
| 社会学部現代社会学科には、社会福祉の実践に向けて様々なかたちで訓練を行うための「社会福祉実習室」を設置している。また、「社会調査演習室」では、可動式の机でノートパソコンが使えるようになっており、少人数でのグループワークを行いながら、社会調査の技術を修得することができる。<br><br>ティーチング・アシスタント(TA)、スチューデント・アシスタント（SA）などの教育研究支援体制を整備している（資料 1、2）。<br><br>教員の研究費・研究室については確保されている。研究専念時間については学部間や教員間で差があり、一律的な確保が難しい状況である。 | |

## 2. 方針等の設定【年度始】　および　点検・評価（振り返り）【年度末】

(1)　方針等の設定【年度始】

年度開始時に、上記「1.」（現状の確認）に基づき、今年度の方針や目標、取組、改善方策等について設定し、点検・評価項目毎に箇条書きで記述してください。

(2)　点検・評価（振り返り）【年度末】

年度開始時に設定した、方針や目標、取組、改善方策等に対して、年度末に点検・評価（振り返り）を行い、その内容を次のとおり点検・評価項目毎に記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「効果が上がった」もしくは「改善された」事項がある場合は、その内容と次年度以降に向けた伸長方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果、「改善すべき」事項があれば、その内容と次年度以降に向けた改善方策について、箇条書きで記述してください。

⇒　点検・評価（振り返り）をした結果に基づき、各評価の視点の確認を行ってください。

<table>
<tr><th>項目No</th><th colspan="3">点検・評価項目</th></tr>
<tr><td>704</td><td colspan="3">教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。</td></tr>
<tr><th colspan="4">方針・目標・取組・改善方策等</th></tr>
<tr><td colspan="4">・「社会調査演習室」の PC のリプレイスを 2015 年度以降に実施し、学修環境の向上を図る予定である。<br>・「社会福祉実習室」についても、必要な設備の更新を適宜行う。<br>・TA や RA、技術スタッフとして適切な能力を備えた人材を確保し、制度の活用を図る。</td></tr>
<tr><th colspan="4">効果が上がった・改善された事項</th></tr>
<tr><th colspan="2">内容（特色ある取組や成果創出など）</th><th colspan="2">伸長方策（将来に向けた発展方策）</th></tr>
<tr><td colspan="2">特になし。</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><th colspan="4">改善すべき事項</th></tr>
<tr><th colspan="2">内容（明らかになった課題点など）</th><th colspan="2">改善方策（将来に向けた発展方策）</th></tr>
<tr><td colspan="2">特になし。</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><th colspan="4">評価の視点</th></tr>
<tr><td>⑪</td><td>教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備を整備しているか。</td><td colspan="2">整備している/<s>していない</s></td></tr>
<tr><td>⑫</td><td>ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、技術スタッフなど教育研究支援体制を整備しているか。</td><td colspan="2">整備している/<s>していない</s></td></tr>
<tr><td>⑬</td><td>教員の研究費・研究室および研究専念時間は確保されているか。</td><td colspan="2">確保<s>されている</s>/されていない</td></tr>
</table>

## 3. 評定【年度末】

上記「2.」の点検・評価（振り返り）結果に基づき、項目毎に

**S** ：方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高い。

**A** ：おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

**B** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

**C** ：方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

の４段階で自己評価を行い、その結果を自己評価の欄に記入してください。

| 項目No | 点検・評価項目 | 評価の視点 | | 自己評価 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 2014年度 | | | 2015年度 | | |
| | | | | 評価視点 | 評価項目 | 評価基準 | 評価視点 | 評価項目 | 評価基準 |
| 704 | 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 | ⑪ | 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備を整備しているか。 | A | B | | A | B | |
| | | ⑫ | ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、技術スタッフなど教育研究支援体制を整備しているか。 | B | | | A | | |
| | | ⑬ | 教員の研究費・研究室および研究専念時間は確保されているか。 | B | | | B | | |

※ 評価基準:基準項目に対する評価　　評価項目:点検・評価項目に対する評価　　評価視点:評価の視点に対する評価

## 4. 根拠資料【年度始・年度末】

上記「1.」「2.」で示した根拠資料について記載してください。

| 資料No | 根拠資料の名称 |
|---|---|
| 1 | 関東学院大学ティーチング・アシスタントに関する規程 |
| 2 | 関東学院大学スチューデント・アシスタントに関する規程 |